

### 高退協事務局新役員あいさつ

## 今春生徒とともに「卒業」

高退協 常任委員

熊沢美郎



三七年間の教員生活、振り返ればあっという間でしたが、高知高教組の執行部も経験し、学校現場ではできない様々な活動を経験することができました。また、ホーム担任を経験したのは教員生活の四分の一の期間でしたが、高知高教組の仲間と学び、支えられ、なんとか終わることが出来ました。

最後に六年間勤務した岡豊高校では、脊柱管狭窄による腰痛がひどかった一年を除き、退職の年までホーム担任をし、退職の年は高校三年生の担任となり、生徒とともに「卒業」

しました。ただ、私自身、卒業式直前の二月二日に、学校で自分自身十年ぶり二回目の脳出血に倒れ、三月二十九日まで病休をとり、学校現場を離れていました。最後は職場復帰しましたが、三月一日の卒業式で生徒たちを見送ることが出来ませんでしたし、異動の新聞発表で退職を知り岡豊高校を訪ねて来てくれた卒業生とも会うことが出来ませんでした。それが心残りです。

今後は、高退協にも加入し、体調を管理しつつできることから取り組んでいこうと思います。よろしくお願ひいたします。



高退協 常任委員

大島克人



## 今後は高教組と高退協のために

2年前の春、定年退職を迎える時には、記念に家族で北欧旅行に行こうとパソコン計画も立てて楽しみにしていました。また、退職祝賀会をいっぱい開いてもらえることも楽しみにしていました。すべてはコロナが台無しにしてくれました。

そして再任用2年を経て、この春37年間の教員生活を無事に終えることができました。4月15日の高知新聞「声ひらば」に「教職員組合に支えられて」という拙文が掲載されましたが、自宅待機の時からずっと高教組の先生方に支えられながら頑張ってきた。高吾支部書記長の時に家族ぐるみで森の国ホテルな

どに旅行に行ったり、沖ノ島でダイビングを楽しんだりしたことが一番の思い出です。教員に採用になって着任した高知東高校では、高教組の先生が30数名もいてとても心強かったし、どの職場でも高教組の仲間がいて元気をもらってききました。しかし今、高教組は仲間が減ってきているということ、自分自身も声かけなどあまりできていなかったと反省しきりです。これからは、37年のうち35年間発行してきたホーム通信や、高知農業高校で12年間培ってきた新聞部顧問としてのノウハウを活用しながら、高教組と高退協のために少しでも役に立てればと思っています。



### ◎原稿を募集します。

分野・内容は問いません。ごく個人の日常のこと、時事・芸術・流行等で自分の思うこと、社会のこと、詩・俳句・川柳・随筆などの文芸 など。

高退協ニュースを会員同士の交流の場としたいと思います。積極的な投稿をお願いします。

◎郵送 〒780-0850 高知市丸ノ内2丁目1-10 高知城ホール高教組内 高退協ニュース担当係

◎Eメール kkoutaikyou@gmail.com

※ メールにはタイトルに「高退協ニュース」を入れてください

## 憲法への思い③

熊沢 美郎



投稿リレー第二走者の林博子さんからバトンを受けました。今年の3月まで学校現場で憲法学習として、立憲主義、日本国憲法の制定過程、憲法の内容について取り組んできました。その中で、憲法前文についての取り組みについて触れてみたいと思います。

### 憲法前文の学習

前文は、立憲主義に基づく日本国憲法の目的や基本原理を崇高な文章でまとめたものです。

国民主権について、それを表現したアメリカ第16代大統領リンカンの「ゲティスバーグの演説」(1863年)の内容にあたる部分を確認します。

平和主義については、①戦争の惨禍が起こるのは、国民の行為ではなく「政府の行為」としてのこと、②国ではなく「平和を愛する諸国民の公

正と信義に信頼してわれらの安全と生存を保持しようとした」ことを確認します。

基本的生存権として、「平和的生存権」、即ち「平和」を基本的人権として位置づけたこと、また、基本的人権の保障は、日本国民のみならず全世界の国民を対象としていることを確認します。

最後に、「人類普遍の原理」に反する「憲法改正」はしてはならないことを確認します。

### 憲法前文の群読の取り組み

声に出して読み、みんな協力して群読をすることで、憲法前文の内容理解を深めました。群読のCDを聴いてイメージをつかみ、全体で役割分担を話し合ってから取り組みました。

### 憲法「マイ前文」を作成し交流

憲法前文を、自分の言葉や思いで作成し、それをみんなの前で発表しました。自分で憲法を考えることで、現在の憲法そのものの学習を深め、また、憲法が自分の生活や政治や経済とどんなに密接に結びついているのかを考えさせかけになりました。

### 最後に

小泉元首相は、イラクへの自衛隊派遣について、憲法前文を根拠にしてその必要性について強調しました。(2003年12月9日) 国連決議なし、イラク戦争開始の理由の崩壊の中、参加国は37カ国にとどまりました。憲法を前文も含めしっかりと学習することの大切さを改めて痛感した「事件」でした。

憲法前文は「理想と目的の実現を目指す決意」を述べています。それは「人類普遍の原理」の追求です。現実が困難であればあるほど、憲法の目指す崇高な理念を見失ってはいけないと思います。

## すべての人が働きやすい職場づくりを

女性部 鎮西知代

2022年度女性部総会(教育通信6月号より転載)  
6月4日、高知城ホールで女性部総会がリモート併用で開催されました。  
まず、今春退職、再任用した女性部員から、再任用までの手続きや退職時の7割になっ

た給与のリアルな近況報告があり、「再任用したくなくないのはなぜか?制度設計に問題がある」などの声が上がっていました。若い世代にも影響が大きく、定年引上げ問題について、今後、女性部でも学習会を行う予定です。

続いて、職場の問題や女性部の活動について話し合いました。

- ・職場の初任者の様子が気になりである。授業研を指導する教員も負担が大きい。初任者に求めるものが現場と教育委員会では違ってしまった。臨時教員の経験者を積極的に採用することは、職場でも歓迎されるのではないか。
- ・特別支援学校で新たに巡回看護師配置の制度ができるなど、色んな職種が増えていくが、一年の任期付雇用が多く、待遇の改善など声をあげていきたい。
- ・特別支援学校で産育休の代替がおらず、現場は人員マイナスが常態化している。管理職は代替不足を見越した学級編制を提案して欲しい。
- ・今年、校外勤務など公用車の使用時に、飲酒の有無を管理職に報告することになった。すでに出勤しているのにもか



2022年度高教組女性部総会